

## ■ 駒王中学校における新校舎の5つの特徴

### 1 教科教室型の運営方式に対応した校舎

教科教室型とは、全教科に専用教室を設け、「ホームページ」から毎時間、教室を移動して授業を受ける学校の運営方式である。

特徴として、生徒が主体的に学習活動に取り組めること。各教科の特色を生かした環境構成ができる等がメリットとしてあげられる。

メディアセンターやメディアと呼ばれる場所では、従来の教科書以外の教材、例えば、コンピュータ情報を含めた、様々な学習環境の整備がなされている。そして、各メディアには、常に先生が控えている各教科のステーションがある。



ホームページは、生徒の生活の拠点となる部屋なので、住宅の居間のように、木材を多く使用し温かみのある空間となっている。校舎内の階段や廊下、ブリッジ等は変化に富んだ空間として、毎時間の教室移動で気持ちの切り替えができるような工夫がなされている。

また、野外も教室の一部として使えるように、中庭、屋上庭園、デッキテラスなどを整備してある。

### 2 地域に開かれた校舎

地域交流ホールや地域ロビーなどは、地域の方々に学校を開放し、学校と地域が交流を図る場として活用できるスペースとなっている。

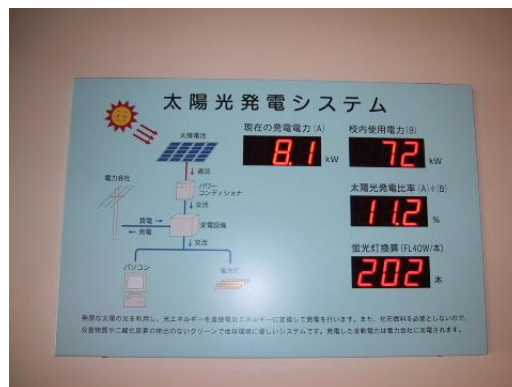
活用にあたっては、市教育委員会と連携し「駒王中学校地域交流スペース活用検討会議」で検討してきた。

平成15年度には、のべ14団体、698人の利用者があった。



### 3 エコスクールという環境に配慮した校舎

太陽光発電を利用し、学校の使用電力の一部を補っている。雨水の再利用をし、グラウンドの散水やトイレの一部に水を供給している。屋上緑化で断熱し、冷暖房の負荷を軽減している。地球環境に配慮し、コンクリートの長寿命化を図っている。ホルム



アルデヒドなどの成分をできるだけ含まない材料を使用している。  
以上のように、環境にやさしい校舎である。

#### 4 色彩にも特徴を待たせた校舎

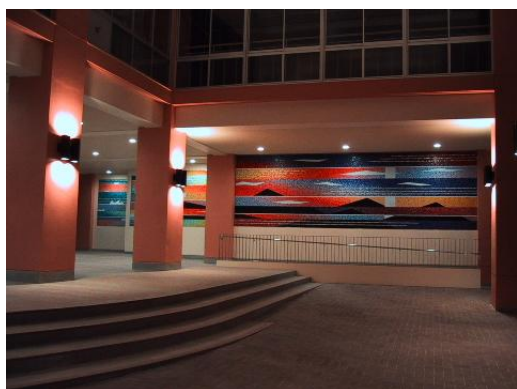
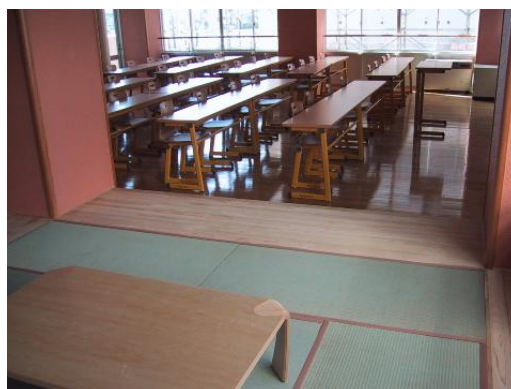
本校のスクールカラーである茜（あかね）色をベースにした色彩となっている。また、各教室への授業ごとの移動が楽しくなるようにとの思いと、分かりやすい空間を作ること考え、場所ごとに三色のアクセントカラーが付けてある。具体的にいえば、内部では表示板、机・いすのスチール部分、吊り下げ蛍光灯、外部ではバルコニーの手摺壁に付けてある。日本に昔からある色（緑色……ミルアイ色 赤色……アカネ色 黄色……ウコン色）で塗られている。



#### 5 畳の部屋（和室）を備えた校舎

「大の字になって寝ころぶ」「きちんと正座して座る」心を静かに落ち着かせ、集中させたいときがある。生徒たちが畳の上で活動するとき、畳の優しい香りや柔らかい感触が、心を素直にしてくれるような、そんな不思議な感触を畳は感じさせてくれる。

生徒の活動の場に固い物ばかりでは良くない。畳を敷ける空間があれば、生徒はもちろん、教師も心の安らぎを覚える。椅子に座る習慣を一時畳の上に移す発想で、生徒たちが安らぎ、近づいて座り、肩を寄せ合い、生徒たちが互いを感じながら、心を触れ合わせ、共に活動できる場を提供できる。そして、畳の上で生まれた日本の文化を学ぶことができる。



<ガラスモザイク壁画>



<インフォメーション>